

8. 名家画語 艸名集【くさのなしゅう】(外)

(刊) 半紙本三巻三冊
 安政四年(1857)三月刊
 (尾張) 大鶴庵塊翁【だいかくあん・かいおう】[編]
 (筑前) 斎藤秋圃【さいとう・しゅうま】[ほか画]
 名古屋 菱屋藤兵衛【ひしや・とうべえ】[板]
 名古屋 美濃屋伊六【みのや・いろく】[板]
 彩色版



諸家の発句を載せる草花の画集。「春冬部」「夏部」「秋部」の三巻三冊から成る。絵師の落款は見当たらないが、秋圃は「春冬部」の最初の花である福寿草(元日草)に「福寿草人の機嫌を咲あはせ」の句をはじめ、「春冬部」に計二句(福寿草、天花葉(ツクシ))、「夏部」に三句(苜台(チサトウ)、地衣花、凌霄花(ノウゼンカズラ))、「秋部」に三句(葉鶏頭、荏実(エゴマ)、黄蜀葵)、総計八句寄せている。句題とした草花図が秋圃画であろう。

この8『艸名集』は後印本。初版は文政五年(1822)『艸名集秋之部』(大蘇序)、翌六年新春序『艸名集夏之部』(五道序)、文政十年(1827)『艸名集春冬之部』(松林鳳臺序)の順に刻成し(『国書総目録』他)、三巻刊行に足掛け五年を費やしている。

一方、この本の刊記奥付は三巻共、

「諸名家発句画集 艸名集 春冬部 全一冊

同 夏之部 全一冊

同 秋之部 全一冊

安政四年丁巳三月刊

尾陽書林

名古屋本町三丁目

菱屋藤兵衛

同京町通小牧町

美濃屋伊六



である。従って、三巻同時に発売されたこと、初版本が出た秋・夏・春冬という順序とは異なり、季節に応じた「春冬部」「夏部」「秋部」という順序付けがなされて販売されていた事がわかる。